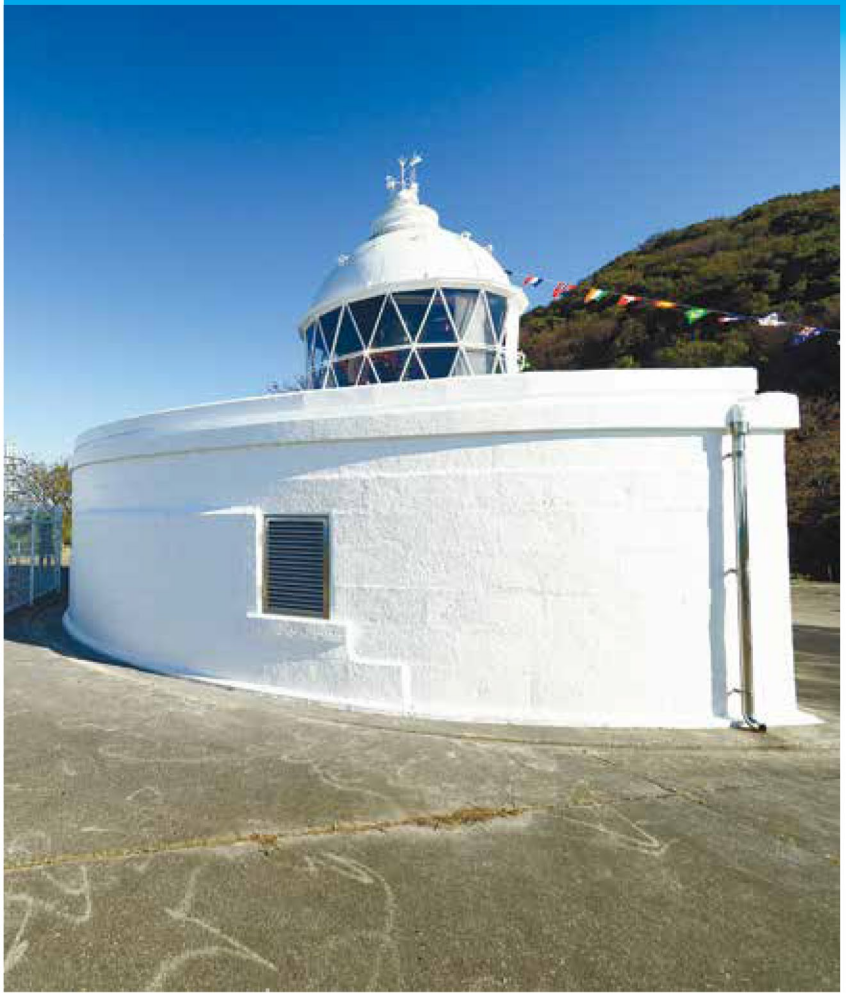
重文指定の灯台どうだい？ ⑥

江埼灯台（兵庫県）

不動まゆう

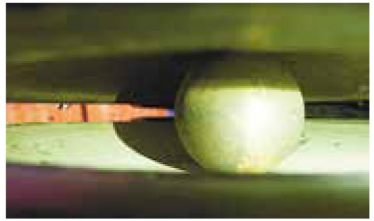
今も残る地震対策の3つの球



どっしりと安定感のある姿だ。明石海峡を見守るように淡路島の北端に位置し、初点した明治4（1871）年から変わらぬ姿をしている。

だが、よく見ると石積みが一部ずれている。壁に凸凹があるのがわかるだろうか。1995年の阪神・淡路大震災のときに生じたものだ。震源地が近く、構内の地盤が地割れし、近隣が停電する中、灯台は予備電源に切り替わり点灯を続けたという。

地震大国と呼ばれる日本において備えの重要性は誰しもが知るところだが、今から150年前の灯台設計者も地震対策に頭を悩ませたようだ。その証拠として江埼灯台は最初期の免振対策が施されている。灯器を設置する台の下に金属製の球を3つ挟み、横揺れを逃す免振装置としたのである。スコットランドの灯台建築技術者であったスティーブンソンの工夫だ。スティーブンソンは、江埼灯台を設計したR・Hブラントンの師にあたる。



現在も確認できる金属製の球

この免振装置が実際に地震で功を奏したかというと、残念ながらそうではない。実はブラントンが機能しないよう早々に固定していたのである。理由は灯台守が灯器のメンテナンスをするときに上に乗ると揺れて都合が悪いということ。さらにこの免振装置は総合的に考えて有効ではないと判断したことが手記に残っている。

しかし球自体は今も残っており、隙間からのぞくと姿が見える。実際には役立てられなかったが、遠くスコットランドから日本の灯台を心配した外国人技師の想いは息づいているように思う。

（つづく）